

◎今週の御言葉 「だからこう祈りなさい」(列王記第一18章20節～39節、マタイの福音書6章1節～15節)

「…主よ、私に答えてください。そうすればこの民は、主よ、あなたこそ神であり、あなたが彼らの心を翻してください。ことを知るでしょう。」(18:37) 「あなたがたの父は、あなたがたが求める前から、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。だから、こう祈りなさい。」(8,9)

◎私たちは生涯祈りについて学び続けなければならないのです。ひとり一人が真実に祈りの人とならせて戴きたいです。

◎列王記第一18章で、雨が降らなくなって2年が経ち、エリヤはアハブ王のもとに遣わされる。「わたしは雨を降らせよう」(1)。エリヤはアハブとその民と対決する。アハブは自分に仕える数百人の預言者を集め、エリヤに挑んだ(19)。民は集められ、両者の戦いを見守った。エリヤは「どちらに着くのか」と民に決断を迫った(21)。主はエリヤの命がけの祈りに答えられた(24, 36-38)。民は「これを見て」始めて「主こそ神です」と立ちあがったのです(39, 40)。

◎マタイの福音書5章～7章は「山上の垂訓」として知られています。イエス・キリストは「人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい」(1)と注意されました。これは「施し、祈り、断食」等に対して「偽善者や異邦人のようであってはならない」と戒められた。「主よ、…わたしたちにも祈りを教えてください」(ルカ11:1)。弟子たちの求めた願いに応え、主の教えられた祈りが「主の祈り」です。

◎主イエスは神様に「アバ、父よ」と祈られました(11:26, マルコ14:36)。私たちも御霊によって「アバ、父」と呼ぶものとされているのです(ローマ8:14, ガラテヤ4:6)。「御名が崇められ」「御国(神の支配)が来るように」「神のみこころが天で行われるように地上でも行われるように」と神に対する私たちの祈りを教えられています。私たちが御名を汚し、自分のことしか求めない弱い存在であることを覚え、謙虚に求めましょう。更に「日毎の糧を与えてください」「貧しさも富もわたしに与えず、ただ、わたしに定められた分の食物でわたしを養ってください」(箴言30:8, 9)。「私たち」とありますから利己主義の求めではないのです。尚「罪の赦し」の祈りについて、何か交換条件のように思い違いしがちですが、神の許しの恩寵による人に対する赦しであることを肝に銘じたい。そして「試みに合わせないで悪からお救いください」との祈りですが、悪魔の誘惑を退け、罪に打ち勝ち、死に勝利したキリストに信頼して歩みましょう。主が教えてください。祈りを心に留め、大切に祈り続けて参りましょう。